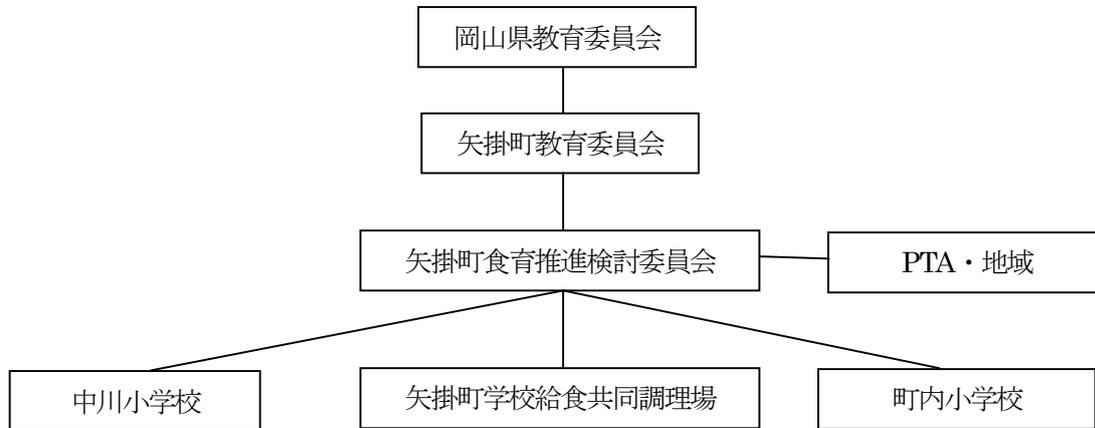


再委託先名

矢掛町

1. 事業推進の体制



2. 事業内容

テーマ1 各教科・領域等の授業及び学校給食を通した食に関する指導

○各学校で活用できる食に関する指導の全体計画の作成と見直し

各教科・領域等の授業と給食時間の指導を見直し、位置付けることができた。

○実践中心校での研究会の開催

「お弁当の日」の提唱者である竹下和男先生をお招きし、「弁当づくりを通した食育」と題して食育講演会を実施した。10月26日の参観日に公開授業と合わせて地域への参加も促し、中川小学校5・6年生児童と保護者、関係職員等約150名の参加があった。食に関する指導の具体的な手立て等、共通理解することができた。

○給食献立の工夫

栄養教諭と調理員、関連機関（岡山県学校給食会・JA等）が協力して、地場産の食材を利用した給食献立を実施し、給食時の「メッセージ」などを使って積極的に啓発した。

学校における食に関する指導の基礎となる、安全・安心な給食作りのために、7月には衛生管理講習会を行い、調理員の資質向上を図った。



テーマ2 朝食を中心とした食に関する指導の充実のための学校・家庭の連携

○家庭への啓発活動

給食だより、学校・学年通信等を活用し、家庭への協力を図った。

○給食試食会の開催

中川小学校の第1学年の保護者を対象に給食試食会を実施した。児童が給食の準備・配膳を行っている様子を見た後、保護者も一緒に会食した。児童と保護者には栄養教諭が「朝ごはんの大切さ」を伝えた。



テーマ3 食に関する指導を充実させるための学校・地域の連携

○食に関する指導体制づくり

地域有識者等を委員に含む食育推進検討委員会を設置し、第1回は8月下旬に行い、第2回は中川小学校研究会と同時に、第3回は2月上旬に開催した。事業内容の報告やアンケート調査の分析結果報告を受けて意見交換を行った。

○地域人材の活用（愛育委員、栄養委員）

各地区の愛育委員や栄養委員と栄養教諭が連携を図り、地場産の食材を使った料理について児童生徒に伝達した。

○地場産の食材を使った料理や郷土料理の紹介

小学校6年生を対象「学校給食献立コンテスト」を実施し、最優秀賞に選ばれた2作品の献立を実際の学校給食で実施した後、レシピ集にして紹介・配布した。

○招待給食

授業や行事等でお世話になった地域の方を招いて会食し、交流を深めるとともに連携を図った。



テーマ1～3に共通する具体的計画

(1) 児童の実態

アンケート調査を実施した結果は次の通りであった。朝食状況について、「毎日食べる」と回答した割合は全体として91.4%(1回目91.4%)、週2～3日食べないことがある7.0%(1回目6.6%)、4～5日食べないことがある0.8%(1回目1.2%)、ほとんど食べない0.8%(1回目0.8%)、男子92.2%(1回目92.1%)、女子90.4%(1回目90.7%)であり、1回目とはほぼ同様の分布が認められた。朝食欠食の理由は「食べる時間がない」「おなかがすいていない」が多く、1回目で最多だった「休みの日は食べない」は理由として第4番目になっていた。

朝食の内容については軽食型35.8%(1回目41.0%)、主食偏重型24.3%(1回目28.7%)、定食型30.5%(1回目21.3%)、おやつ型5.3%(1回目7.8%)であった。朝食を食べることは健康のために大切と答えた児童は85.6%(1回目80.3%)、少し思う12.8%(1回目16.8%)、思わない1.6%(1回目1.6%)であった。

給食の摂食状況について、主食やおかずでは「いつも残さず食べる」は68.7%(1回目61.5%)、「残すことが多い」と「いつも残す」で7.4%(1回目9.8%)あった。一方嫌いなものを残すことがあるかを尋ねたところ、「ある」が12.8%(1回目14.8%)、「ときどきある」で43.2%(1回目37.7%)、「ない」は42.8%(1回目47.1%)であった。その理由は「嫌いなものがあるから」「量がおおすぎるから」の順であった。また給食に地場産物が使われていることを知らない者は7.0%(1回目17.6%)あった。

食事に関して気を付けていることの中で「朝昼夕3食必ず食べる」は90.1%(1回目86.9%)であり、「栄養のバランスを考えて食べる」ことに気を付けている児童は38.7%(1回目37.7%)であった。

(2) 保護者の実態

保護者自身の朝食摂取の状況では「必ず毎日食べる」が82.5%(1回目86.9%)、週2～3日食べないことがある11.0%(1回目7.7%)、4～5日食べないことがある1.8%(1回目0.9%)、ほとんど食べない4.8%(1回目4.5%)であった。朝食づくりで気を付けていることは、「短時間で食べられる」が38.2%(1回目31.7%)と最も多く、

「栄養バランス」25.4% (1回目25.8%)、「何でもいいから食べてくれるもの」では20.6% (1回目25.8%)であった。給食について、献立表をよく見る、どちらかといえば見ると答えた保護者は50.9% (1回目55.2%)、給食便りは85.1% (1回目76.0%)であった。献立表が参考になる、どちらかといえば参考になると答えたものは80.3% (1回目74.8%)、給食便りは84.6% (1回目83.9%)であった。給食のことを家庭で話す、ときどき話す児童は84.6% (1回目82.8%)であった。保護者が給食での地場産物使用を知らない割合は5.3% (1回目6.8%)であった。学校給食に望むこととして、主なものは「食育を進めてほしい」53.9% (1回目37.6%)が1回目より順位が高くなり、ついで「安全な食品を使用してほしい」52.6% (1回目57.9%)、「栄養や食品についての知識」43.9% (1回目43.9%)、「基本的な食事マナーを身につけさせてほしい」36.4% (1回目33.0%)の順であった。

本事業における評価指標と考察

数値上、成果として見られたのは次の点であった。

- ①朝食欠食率 91.4%⇒91.4%
- ②地場産物活用率 47.3%⇒52.2%
- ③給食に地場産物が使用されていることを知っている人の割合 1回目83%⇒2回目93%
- ④給食残食率 94.05%⇒95.15%

という結果で、小学校では少しずつではあるが、向上傾向にあった。

本事業の成果

- ・給食に地場産物が使用されていることを知っている割合が高まったことは、「給食だより」や給食時の放送を通して、繰り返し啓発した成果であると考えられる。
- ・朝食の内容も1回目調査時には「軽食型」「主食偏重型」が多かったが、2回目調査時には「おやつ型」や「主食偏重型」が少なくなり、「軽食型」「定食型」が増えた。食事に関して気を付けていることの中で、「朝・昼・夕3食必ず食べる」が1回目86.9%⇒2回目90.1%に増加していることや、朝食を食べることは健康のために大切と答えた児童が1回目80.3%⇒2回目85.6%と増加していることから、給食時の指導や、学校行事、家庭・地域との連携により効果があったと考えられる。
- ・学校給食献立コンテストや食育講演会を実施することにより、保護者の意識や行動にも取り組みの効果は表れており、給食だよりを見る割合も増加し、学校給食に望むことは1回目調査時3位だった「食育を進めてほしい」が2回目調査時には1位となり、本事業の実践により学校給食への興味関心や食育の必要性が保護者へ波及したものと考えられる。

今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

朝食内容に少しの変化はあったものの、毎日食べる児童の割合は91.4%と伸び悩んでいることや家族との共食の割合が低いことから、今後も継続して行動の変容や朝食内容の改善ができる取り組みを家庭への働きかけを行うことが必要であると考えられる。

食事の意識の面で3食必ず食べることや栄養バランスを考えて食べることに気を付けている児童が多い。一方で起床時間が遅い傾向があることから規則正しい生活の定着を図る必要があると考える。

児童及び保護者いずれも、食事や給食について興味関心が高まっている一方、「食事や給食を残さず食べる」という行動変容は表れていない。今後も継続して家庭・地域と連携し、さらに方策を検討する必要があると考える。